

はじめに

サラブレッドの血統の探究において、私は母系（牝系）の重要性を大きな仮説に掲げており、本書前版（第3版）では、2020年末までのG I 競走に勝った今世紀生まれの全ての馬を網羅した母系樹形図を掲載しました。それから4年半を経て、ようやく第4版の発行にこぎつけました。

そのあいだも母系樹形図の加筆は継続し、この第4版に掲載のものは、製本発注直前の今年（2025年）9月14日までのG I に勝った今世紀生まれの全馬を網羅しています。この樹形図は「第1章 母系の意義」で論じる内容の付随資料でもあります。

なお、前版の最初にも書きましたが、初版および第2版で掲載した父系の樹形図はこの第4版でも掲載しておりません。後述のとおり、サラブレッドの能力の科学的探究において「父」を論ずる意義はあるものの、「父系」を論ずる意義はないと考えるからです。

私の血と汗と涙の結晶とも言えるべきこの母系樹形図を最も利用いただきたいのは生産者（繁殖牝馬の所有者）の方々です。生産者各位が所有する繁殖牝馬をこの樹形図に加筆した場合に、その周囲にどの程度のG I 馬がいるのか？ そしてどのようなタイプの馬がいるのか？ という視点で眺めると、導入すべき繁殖牝馬や配合に関するヒントも見えてくるのではないのでしょうか。

さらに、馬券を中心に競馬に接するファンは別として、例えば1頭の馬に一定の期間接する方々、つまり「点」ではなく「線」として特定の馬を追いかける一口馬主のような方々にしても、もう一步踏み込んで、生き物を可能な限り科学的に眺めようとする視点を持つことは間違いない得策であると思うのです。自らの少なからぬ軍資金をつぎ込む出資馬の選択において、新たな方向性を見出すこともできるのではないのでしょうか。

一方で、相変わらず科学的に疑問が多い血統関連言説がいくつもあり、生物学を曲りなりにも勉強した者としてこれらを看過できず、継続的な自分なりの科学的啓発が本書作成の趣旨でもあります。

「なぜ近親交配はリスクがつきまとうのか？」

前版の序章でも上記を問いましたが、依然として生産界を含めたあらゆる競馬関係領域において、その理由を理解している者は多くはないというのが変わらぬ実感です。

「なぜ芦毛と芦毛の両親からも鹿毛や栗毛が生まれるのか？」

このような「なぜ？」という思考がサークル全体に依然として欠乏しています。両親ともに芦毛でも非芦毛が生まれるしくみを理解することは、遺伝の基礎である「メンデルの法則」を理解することでもあり、そのような基本がないがしろにされているのが実際でしょう。

以上のような観点から、あらためてこの第4版は以下のような構成で展開します。

第1章 母系の意義	(2 頁～)
第2章 近親交配と遺伝的多様性	(25 頁～)
第3章 遺伝の話あれこれ	(61 頁～)
第4章 今後の生産界	(66 頁～)

なお、この第4版は既版で論述したことの再確認や新しい知見に基づく継続版の位置づけであり、よって既版の内容の再掲もあります。また、一昨年には出版社（星海社）から『競馬サイエンス 生物学・遺伝学に基づくサラブレッドの血統入門』を上梓しましたが、本版ではそこに記述したことも掲載します。これは、私が論じたいことそれほど多岐にわたらず、繰り返し論じながら深掘りしたいことばかりであるからです。